



3月雇用統計、FRBの利上げ路線に影響せず

2017年4月11日

3月の米雇用統計は労働市場が連邦準備制度理事会の望み通りの状態にあることを示唆した。FRBは景気過熱を防ぐため、年内の緩やかな利上げ路線を維持する公算が大きい。

失業率は約10年ぶり低水準をつけた一方、雇用と賃金は持続可能なペースで伸び、いずれもFRB関係者が歓迎しそうな進展を見せた。

失業率は2月の4.7%から4.5%に低下し、FRB関係者が予想していた長期的水準を想定以上に早く下回った。FRBは先月公表した見通しで、失業率が年末までに4.5%へ低下すると予測していた。

3月は雇用が急減速したが、これは雇用の冷え込みや景気減速を意味するわけではない。先月の就業者数は前月比9万8000人増と、1月、2月にそれぞれ平均20万人余りに達した増加数に及ばなかった。だが、FRB当局者は単月の増減にとらわれず判断しようとするため、1-3月期の雇用が月間平均およそ17万8000人増加し堅調なペースとなったことに満足することだろう。

また、3月の雇用鈍化は一時的な現象である可能性が高い。1月、2月は暖冬で建設業の雇用が大幅に増加したが、3月の大雪が雇用を下押しした公算が大きく、さらにトランプ大統領が連邦政府職員の採用凍結を発表したことなどから、多くのエコノミストが雇用の減速を予想していた。

イエレンFRB議長は先月の講演で、労働人口の増加を吸収するためには月間7万5000人から12万5000人の雇用増が必要になると述べた。3月の統計はその中間値にほぼ収まっている。

FRB関係者は低迷する景気のでこ入れに何年も費やしたが、今では成長が早過ぎたり遅過ぎたりしないよう、順調な進展を維持しようと務めている。

FRBは3月にフェデラルファンド金利の誘導目標を25ベーシスポイント引き上げ0.75～1%とし、年内にさらに2回の追加利上げがあると予想した。

今のところ、最新の雇用統計がFRBの見通しに影響を及ぼす可能性は小さいようだ。